Cisco Eメールセキュリティアプライアンスのクロスサイトスクリプティングの脆弱性

Medium	**アドバイザリーID :** Cisco-SA-20150514-CVE-2015-0734 **初公開日 :** 2015-05-14 16:49 **バージョン 1.0 :** Final **CVSSスコア :** 4.3 **回避策 :** No Workarounds available **Cisco バグ ID :** CSCut87743	CVE-2015-0734

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Eメールセキュリティアプライアンス(ESA)の脆弱性により、認証されていないリモートの攻撃者がクロスサイトスクリプティング(XSS)攻撃を実行する可能性があります。

この脆弱性は、HTTP GETまたはPOSTメソッドを介して渡される一部のパラメータの入力検証が不十分であることに起因します。攻撃者は、ユーザパケットを傍受し、悪意のあるコードを挿入することで、この脆弱性を不正利用する可能性があります。エクスプロイトに成功すると、攻撃者は該当サイトのコンテキストで任意のスクリプトコードを実行したり、攻撃者が機密のブラウザベースの情報にアクセスしたりする可能性があります。

シスコは脆弱性を確認しましたが、ソフトウェアアップデートは利用できません。

この脆弱性を不正利用するために、攻撃者は、悪意のあるサイトにユーザを誘導するためのリンクを提供したり、誤解させる言葉や指示を使用して、提供されたリンクに進むようにユーザを促す可能性があります。

該当製品

シスコは登録ユーザ向けにBug ID CSCut87743をリリースしました。このBug IDには追加情報と、影響を受ける製品バージョンの最新リストが含まれています。

脆弱性のある製品

このアラートが最初に公開された時点では、Cisco ESAリリース8.5.6-106には脆弱性が存在していました。Cisco ESAの新しいリリースにも脆弱性が存在する可能性があります。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

回避策

今後のアップデートやリリースについては、ベンダーに連絡することを推奨します。

ユーザは、非要請リンクが安全に追跡できることを確認する必要があります。

XSS攻撃と、これらの脆弱性を悪用するために使用される方法の詳細については、『Cisco適用対応策速報』の「 クロスサイトスクリプティング(XSS)の脅威ベクトルについて」を参照してください。

影響を受けるシステムを監視することを推奨します。

修正済みソフトウェア

ソフトウェアの更新プログラムは利用できません。

不正利用事例と公式発表

Cisco Product Security Incident Response Team（PSIRT）は、本アドバイザリに記載されている脆弱性の不正利用事例やその公表を確認していません。

URL

https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/Cisco-SA-20150514-CVE-2015-0734

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	ステータス	日付
1.0	初版リリース	適用外	Final	2015年5月14日

利用規約

当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。 このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。